

コロナ対策ガイドラインでの雪合戦 実施報告書

この資料は、コロナ禍による大会中止が相次ぐなかで、自治体のイベント実施指導要領にそった「雪合戦」の運営方法を検討しガイドラインを検討し実施したのですが対応方法が妥当なものか効力や成果まではわかりません。今回は参加チームは少なく大会規模的にも参考になるかはわかりませんが、参考事例としての報告資料とします。

道央チーム有志、同地区選手会メンバーによる実行委員会主催

■雪合戦エキシビジョンマッチ 参加は北海道内チームに限定

2021年2月21日（土） 茨戸川コート 参加9チーム2コート

2021年2月28日（日） ゆにガーデン 参加14チーム3コート

①事前の仮エントリーアンケートの実施 1月初旬～

【結果】 → 実数の読み通りとはいかず。

【成果】 → 参加確実の少数チームは判明
参加出来ないチーム判明（チーム事情など）
参加申し込受付期間の告知

②正式な募集期間は短期間で実施

2月1日～8日まで1週間

- 申し込みチームへ
ガイドライン内容の同意書を全員
から提出してもらう確認（左）
- 直前の中止判断も想定であることを
告知
- 申し込み段階で
観客応援お断りの告知

【参考事例】

- 直近の対応
新型コロナ感染の影響により
仮エントリーで参加表明のチーム
が1チーム不参加となる。
- 従来の代表者への大会概資料の要
送付は行わず、全員への同意書と
同様に資料の公開と併せて参加者
全員へURLを代表から送信する
旨を同意書にも記載し確認。
※LINE連絡により、スマホ内に大
会資料が保存可能になります。

DACS参加同意書

コロナ感染対策の一環として今シーズンの雪合戦（練習コート利用と代替雪合戦大会へ出場チーム）の参加メンバーへの同意書へ全員回答が必須参加条件です。該当日の3日前までに回答をお願いします。このデータはチーム代表者の方と事務局が共有で管理します。ウィズコロナ禍の状況下での雪合戦の実施につき、大変なご不便をおかけしますが、継続のためご理解の上、ご協力をお願いいたします。ネット環境の無い方は、どなたか代行をお願いします。

メールアドレス*

有効なメールアドレス

このフォームでは回答者のメールアドレスを収集しています。 [設定を変更](#)

●お名前と携帯連絡先 *

記述式テキスト（短文回答）

【注意】最初の設問は代表の方のみ回答をお願いします。代表者の方はチームメンバーへこの承諾書のURLを送信し、回答を管理する承諾をお願いします。

承諾する

【1】雪合戦コート利用/代替大会参加共通●今シーズンの雪合戦参加について以下のすべての項目について、前2週間から当日までに該当する場合は、参加を取り止める事に、同意をお願いします。すべてに☑をいれてください。

1) 発熱を自覚した場合

2) 咳（せき）、のどの痛みなど風邪の症状がある場合

3) 味覚や嗅覚の異常

チーム毎に制作

約40項目

別途データ添付【資料A】

③大会実施、試合運営方法のポイント

- 開会式の省略
- 大会受付の簡略化
- 競技受付の省略、名簿の提出無し。
- 雪球ケース受付の簡略化、
(担当スタッフがチーム分6ケースを、長テーブルへ配置しておく)
チームが自主的に持ち出し、終了後返却
- 北海道コロナ通知システムの登録（同意書に添付）

【会場レイアウト】

- 雪球製造場所、製造器の配置を広く取る。
- 駐車場をコート近くに配置レイアウトし確保
※見込み車両分のスペースが確保可能だった為

- 密回避のため喫煙場所は設置せず。

**北海道コロナ通知システム
メールアドレス
ご登録のお願い**

北海道コロナ通知システムとは？

「北海道コロナ通知システム」は皆様が施設利用やイベント参加の際、QRコードからメールアドレスを登録いただく、同日に同一施設を利用した方の中から感染者が確認された場合、北海道からEメールでお知らせするものです。

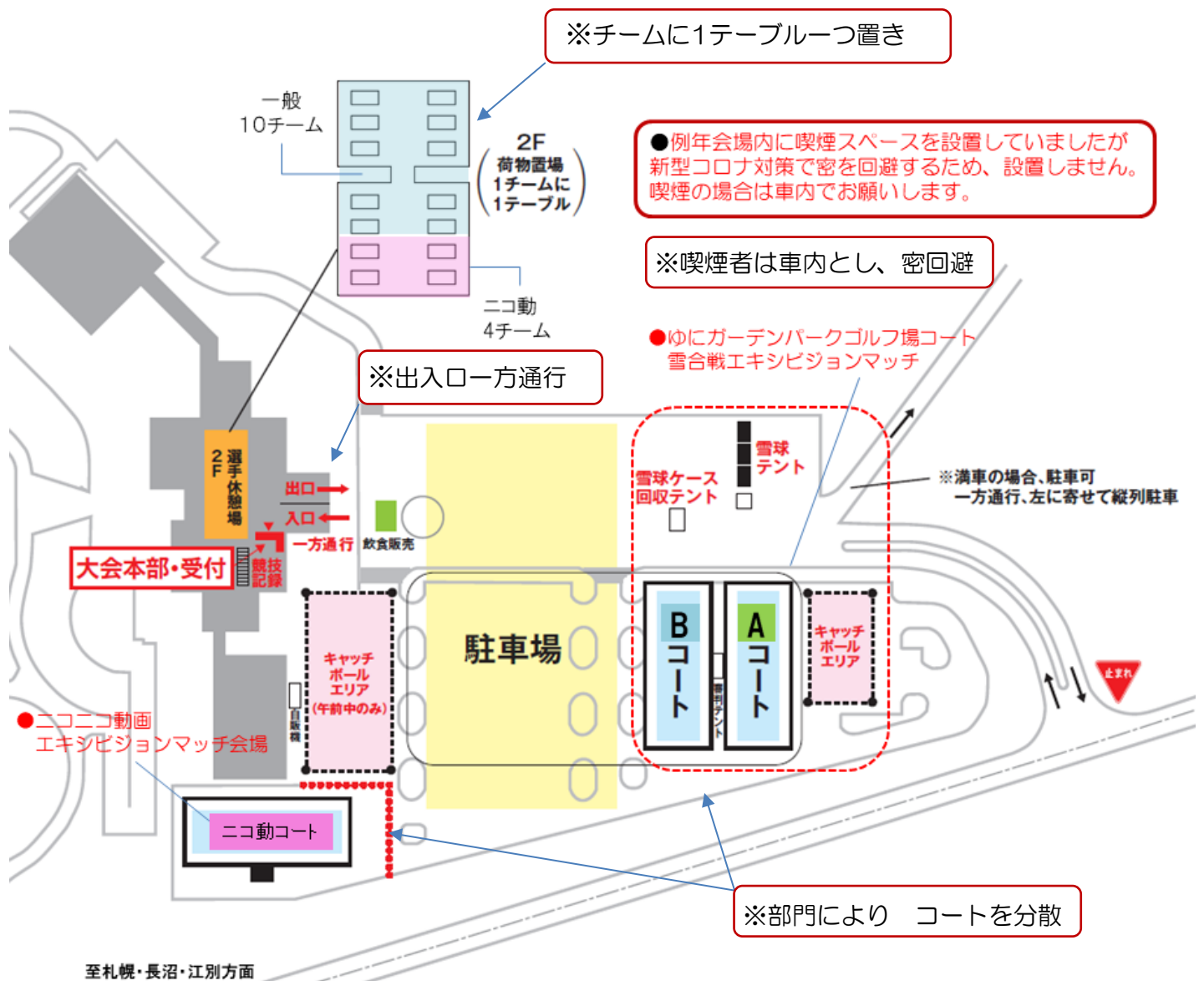
取得費について

- 登録日時、曜日、メールアドレスのみ取得します。
- 登録が完了した後は、個人情報を削除した時点で、速やかに削除いたします。
- 氏名、住所、電話番号、行旅履歴（位置情報等）は一切取得いたしません。
- 詳細はご登録の際に利用規約をご確認ください。



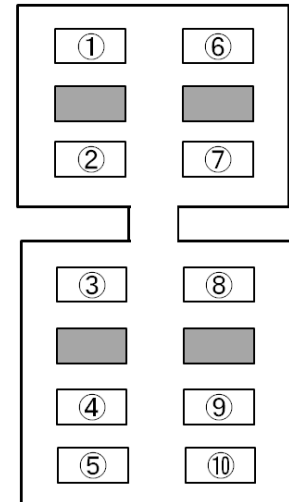
北海道雪合戦連盟道
央ブロック事務局

北海道
※QRコードは施設内専用システムでQRコードの読み取りは、専用アプリ「北海道コロナ通知システム」が必要です。



④会場施設内での対策

- ・ 入場時の検温
- ・ 消毒用アルコールの設置
- ・ 出入口の一方通行化
- ・ 荷物置き場（各チーム長テーブル4本）
各チーム間隔を空ける。休憩は試合のないチームのみ。
- ・ マスク、タオル、ティッシュの持参
タオルはトイレ手拭き用
- ・ ゴミ袋の用意と持ち帰り
- ・ 大会会場内は禁煙 ※灰皿の設置による密を回避
※喫煙は車両内
- ・ チームプレート裏にチームのタイムテーブル記載し、
一日の動きを明確化
- ・ 一部軽食の提供を除き。弁当斡旋はせず、各自用意。



- 荷物置き場・休憩場所
2階10チーム場所を指定
1階は同様に4チーム確保



1) 出入口を一方通行として密を回避



2) 大会受付／同意書リストメンバーの確認



3) 検温カメラ・検温器による確認



4) マスク、手袋、メガホン予備販売

⑤試合中の対策ポイント

- ヘルメット占有使用 今回は全チームマイヘルメット。
※最大20チーム分のヘルメットを用意（緑ヘルメットも含む）
- 赤青、その他の色（金銀他）のゼッケン、3種を活用し、可能なかぎり付け替えを回避。予選リーグ3チームで試合時にゼッケン交換を不要とした。
- **選手はヘルメット着用の試合時以外は、マスク着用厳守**
試合中はアドにさげ、ヘルメットベルトでアゴに固定することを推奨
- 手袋は常時着用、（複数用意を依頼）素手は禁止
- **監督はマスク着用でメガホンを使用、下に向けて指示をだす。**
メガホンは各自用意
- 試合審判は全員電子ホイッスルを使用。
- 試合終了のみ、時計係が鳴らす。



試合中にはマスクはアゴに下げる事を推奨するに留めたが実際にはしない選手の方が多かった。



検温器2台と電子ホイッスル23台を支部で購入。計5万ほどの出費



監督のメガホン使用 マスクの上からメガホン使用により飛散防止。声も届く。フェイスガードの曇りは無かった。



メガホン。（100円ショップで購入）マスク着用で使用することでの判断。

～⑤試合中の対策ポイント～審判編



- 審判はマスク着用でメガホンを使用、下に向けて指示、アウトコールをだす。
メガホンは各自用意

※審判、監督は大きな声を出す以上、マスクを着用すべきという判断です。
メガホンはマスクで声を通りにくくなるための対策と飛沫拡散の防止、
マスクのままでのフェイスガードの曇りを回避する意図で実施したものの。

審判動作としては、メガホンを口に当てた状態で待機、
もう片方の手に電子ホイッスルを持つ。
慣れていないため、メガホンを口に充てていないと、
習慣でメガホンを持つ手でアウトコールをしてしまう。

試合開始時は 1 シェルライン上に整列し挨拶。
終了時も同様に整列・挨拶で終了。ともに握手はせず。

相互審判は、ユニフォーム、マイヘルメットのまま、メガホンで審判を識別。

終了時も同様に整列・挨拶で終了。ともに握手は無し。
相互審判は、ユニフォーム、マイヘルメットのまま、メガホンが審判として識別。

⑥課題ほか整理事項

別途資料で添付する『「雪合戦」実施のためのコロナ対策ガイドライン』は、利用施設の管理先である自治体にも承認をいただいておりますが、あくまで国の示したイベント等の実施ガイドラインをもとに、雪合戦用に検討したものにすぎません。

雪合戦は大会規模でみると、参加人数や屋外での実施内容については基準以下です。冬季の場合は、控え場所となるスペースの確保が大会規模、参加チーム数により、最重要であるかと思われます。

以下、実施して見えた課題となる点をまとめておきます。

1. 運営サイド以上に、参加者に新型コロナ対策の意識を持ってもらう事が、まだまだ、浸透されていない点。参加者の意識をいかに高めるか。
事前の選手の同意書は、初めてのことであり、形式的なことです。
実効性が確かなことにするために段階的な呼びかけが、競技最中にも必要かと思われます。試合後など監督や代表者を通じて注意喚起をアプローチすることが必要です。
2. マスクの常時着用はなかなか難しい。特に若い選手が多い。注意する際も配慮が必要。
3. 試合中の選手のマスク着用については試合中、ヘルメット着用とマスクをアゴまで下げる、または鼻を出すかで、徹底するなら、統一した方が良い。
試合中は、「マスクを外しても良いが、ヘルメットを取った時点で、すぐにマスクを着用」としたが、やはりマスク着用までの時間がかかり、徹底されていなかった。
4. 審判、監督のマスク着用、メガホンは必要か否かの判断は今後も検討。
今の新型コロナ社会の進展によっては 雪合戦のルールにも影響のあることです。
5. 電子ホイッスルの使用は、審判のほかにタイムキーパーに終了合図を鳴らす担当として実施したが、これは以前から、主審の負担軽減として合理的な方法として実践してきたものです。この機会に運営方法として定着させる機会になったと思える。
6. オリンピック開催の議論と同様に、そもそも実施するべきかの判断は、事前の準備や運営側の意思の統一のもと、決定時期の想定や、中止の場合の対応など、実施する前提と中止判断の覚悟が必要。

以上。